LEON2

登場人物

ノーマン・スタンフィールド（スタン）： マジシャン。

スタッフ：マジックの進行をサポートする男。

客A、B、C、D： 観客

カメラマン： 舞台裏までスタンを追う撮影担当。

◯劇場・外観

夕暮れ時。

古びた劇場の看板が点滅している。

看板の文字：「レオン劇場」。

◯同・舞台袖

「じゃらじゃら（ビーズの暖簾)」が吊るされている。

じゃらじゃらをかき分けて、ノーマンスタンフィールド（以下スタン）がステージへと出ていく。

◯同・ステージ

客席を埋め尽くす観客。

スタン、一礼する。

スタン

「(片言の日本語で）コンニチハ。ワタシはスタンといいます。今からみなさんにスペシャルなマジックをお見せしたいと思います」

スタン、ポケットから未開封のフリスクを取り出す。

スタン

「まずは、フリスクを使ったマジックをします。ワタシは、ケースの中にフリスクが何粒入っているか、音を聞き、一粒味わうだけで、当てることができます」

スタン、耳元で軽くケースを振る。

シャカシャカという音が静かな場内に響く。

スタン、フリスクの封を破りながら、客席を見渡す。

スタン（最前列にいる客Ａへ）

「そこのお客さん。ワタシに見えないように、このケースの中から好きなだけフリスクを取り出してください」

スタン、客Ａにフリスクを渡す。

客Ａ、スタンの死角でフリスクを数粒取り出す。

スタン

「オーケー。隣のお客さんも…よかったらどうぞ」

隣の客Ｂも同じように数粒取る。

スタン、残りの入ったフリスクのケースを返してもらう。

スタン

「では…いきますよ」

スタン、耳元でケースを振る。

シャカシャカという音が静かな場内に響く。

スタン、一粒取り出し、口に入れる。

スタン、天を仰ぎ、フリスクを噛み砕く。

場内にカリッと音が響く。

スタン、喘ぎ声を漏らし、全身を小刻みに、かつ激しく震わせる。

スタン

「（恍惚の表情で）…39 粒」

スタッフ、やってくる。

スタッフ、フリスクのケースを分解し、中身を数えはじめる。

スタッフ

「…39 粒です」

客席からまばらな拍手。

スタン

「ではもう一度。今度は別のフリスクを使います。今日、お越しのみなさんの

中で、フリスクを持っているかたはいますか？」

スタン、客席を眺める。

客の何人かが手をあげる。

スタン、挙手している客 C を指す。

スタン

「あそこのお客さん」

スタッフ、客席に降り、客Ｃからフリスクを受け取る。

スタッフ、スタンにフリスクを手渡す。

スタン

「アリガトウゴザイマス」

スタン、耳元でケースを振る。

シャカシャカという音が静かな場内に響く。

スタン

「一粒いただきます」

スタン、一粒取り出し、口に入れる。

スタン、天を仰ぎ、フリスクを噛み砕く。

場内にカリッと音が響く。

スタン、喘ぎ声を漏らし、全身を小刻みに、かつ激しく震わせる。

スタン

「(恍惚の表情で）…19 粒」

スタッフ、ケースを分解し、中身を数える。

スタッフ（確認して）

「19 粒です」

客席から大きな拍手が沸き起こる。

一拍置き、

スタン

「次は、ランチ当てマジックをします」

スタン、客席を眺める。

スタン

「どなたか、協力してくれる方、いませんか？」

スタン、客Ｄと目が合う。

スタン

「お客さん。ステージへ」

客Ｄがステージへ上がる。

スタン

「はじめまして」

客（緊張し）

「はじめまして」

スタン

「ランチにはいかれましたか？」

客

「はい」

スタン

「では、今から、この方が食べたランチのメニューを当てます。私はイヤホンをします。何も聞こえませんので…みなさんに、あなたが何を食べたか、こっそり教えてあげてください」

スタン、ウォークマンのイヤホンを装着する。

漏れてくる音はベートーベンの「交響曲第９番」。

スタンは目を閉じ、流麗に、指揮者の手振りを始める。

スタッフ（客Ｄに聞く）

「ランチは何を食べましたか？」

客Ｄ

「ナポリタンです」

スタッフの合図で、スタンがイヤホンを外す。

スタン

「では…当てます」

スタン、客Ｄにじりじりと近づく。

犬のように、客の首筋に顔を埋め、くんくんた臭いを嗅ぐ。

スタン

「…甘い匂いが…します」

スタン、客Ｄの口元を見て、表情が変わる。

客Ｄ、ガムを噛んでいる。

スタン

「シット…ガムトリック。でも…それは、効きません」

スタン、客の全身を這うように嗅ぎ回る。

スタン

「中華？…タイ料理？…（確信して）わかりました…ナポリタンだ」

スタッフ

「正解です」

拍手喝采。

スタンは汗を拭い、カメラを指差す。

スタン

「次は…場所を変えます。カメラマンの方、ワタシのあとについてきてください」

スタン、舞台袖へ捌ける。

カメラマンが密着して追う。

スタッフが大型のモニターを舞台に設置する。

モニターにカメラの様子が映し出される。

◯劇場・廊下

スタン、足早に歩く。

トイレの前で立ち止まり、カメラを振り返る。

スタン

「今から…人体消失マジックをします。ワタシがトイレの中に入って…5 秒経ったら、入ってきてください」

スタン、トイレへ入る。

カメラマン、5 秒数えて、突入する。

◯同・トイレ

開け放たれたトイレのドア。

スタンの姿はない。

カメラマン、個室を一つずつ確認していく。

しかし、スタンの姿はどこにもない。

カメラが右往左往し、廊下へ戻る。

◯同・廊下

スタン、何食わぬ顔でトイレからひょっこり現れる。

カメラマンが驚いてカメラを揺らす。

◯同・ステージ

スタン、戻ってくる。

スタン（客席へ）

「最後のマジックです。この中で、指輪をしている方、手を上げてください」

少なくない観客が手を挙げる。

その指に指輪が光っている。

スタン

「では…みなさん、目をつぶってください。私が『ビンゴ』と合図します。そ

したら…目を開けてください。指輪が…消えています」

観客全員が目を閉じる。

静まり返る場内。

スタン、観客一人一人の顔を眺める。

スタン

「…ビンゴ！」

客が目を開ける。

客たち、自分の指を見る。

はめていたはずの指輪が忽然と消えている。

客席にざわめきが広がる。

スタン

「みなさんの指輪はここにあります」

スタン、スーツの上着をめくり、内ポケットを見せる。

内ポケットに、客たちの指輪が鎖のように連なってぶらさがっている。

スタン

「リングトリックです」

◯事務所・回想

殺風景な事務所。

スタン、椅子に深く腰掛けている。

スタッフがやってくる。

スタッフ

「今度のステージ、サクラは何人仕込みましょう？」

スタン

「…全員だ」

スタッフ

「…全員ですか？」

スタン、立ち上がり、スタッフににじり寄る。

スタン（怒号）

「エッブリワン！！！！」

◯劇場・ステージ

客席から割れんばかりの拍手喝采。

スタン、深々と一礼。

スタン、満足げにステージを去っていく。

暗転。

―― 終わり ――